

OBOE オーボエ

ロングトーンとスケール練習の秘訣

鈴木純子 すずき・じゅんこ



◆出身 東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学
◆所属 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
◆趣味 相撲観戦、猫と遊ぶ(言葉を読める)
◆血液型 O型
◆星座 いて座
◆読者にひとこと 上を向いて歩こう！
◆手紙の送り先 BJ 氣付

こんにちは！ まだ梅雨明けしていない地域がほとんどかな？ 湿度の変化は楽器のバランスを狂わせたり、リードの吹き心地を変えてしまったりするので、私は湿気にはとても敏感です（でも、自分の中学・高校時代を思い返すと、細かいことは気にも留めずに、勢いで吹いていたような気もしますが……）。あまり神経質になる必要はありませんが、「リードのせいかな」とか「吹き方が悪いのかな」と思いながら“何らかの吹きにくさ”を感じているなら、できればコンクール前に楽器を調整に出すことをおすすめします。

さて、好きな音、出したい音のイメージは見えてきましたか？ 見つからない人は引き続き探しましょう(´▽`) / 見つけるためのヒントは7月号を見てネ。

■ロングトーンをするときのポイント

楽器を始めたら、エチュードやコンクールの課題曲&自由曲など、いずれは「曲」を吹くわけですよね!? 曲を吹いているときには一つひとつの音について音程や音色などをゆっくり考えているヒマはありません。いろいろな意味での“よい音”を無意識に出すために、体に覚え込ませるのがロングトーン。無意識によい音を出すためには、意識的にロングトーンの練習をしなければいけないのです。私たちプロにとっても、ウォーミングアップメニューのうちの欠かせないひとつなんですよ。

●ロングトーンは半音階ではなく「O長調」などの音階で吹こう

半音階でのロングトーンは全部の音が吹ける、手っ取り早い方法のように思えますが、前後の音程の関係がつかみにくく、ただ指を押さえ替えるだけの、音楽的でない機械的なトレーニングとなってしまいます。正確な音程で吹けているかを「判断する耳を育てる」ためにも、各調の「ドレミファソラシド」でロングトーンをしましょう。全調でする時間がないときは、ハ長調（Cdur）以外にニ長

調（Ddur）、変ロ長調（Bdur）、そしてロ長調（Hdur）と変ニ長調（Desdur）を加えれば、ほぼすべての音を吹くことができます。

ロングトーンのやり方はひとつではないので、克服したい課題に合わせて変えていけばよいでしょう。一例として【譜例1、2】を紹介しますが、これ以外にもいろいろな方法があると思います。

●自分の音の質を聴こう

はじめに言ったように、「無意識によい音を出すための、意識的な練習」です。

- ①理想の音を思いながら、その音に近づけようとしているか？
 - ②スピードの速い息を入れられているか？
 - ③乱暴な音になっていないか？
 - ④揺れないまっすぐな音を吹けているか？
- などなど、よく自分の音を聴きながら吹きましょう。

■スケールは「メロディ」

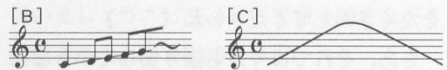
スケール（音階）の練習のときに最も気をつけていることは、ひとつのメロディとしてとらえ、いかに美しく吹くかということです。よい音程で、音が転ばず、調号が増えていってもなめらかに…など、基本的なことにも注意を払いますが、それだけでは機械的で義務的な練習になり、楽しくありません。思いっきりきれいな音で、きれいな音がつながる美しいスケールにすることが大切です。

【譜例3】を見てわかるように、音は黒や白の丸で表されます。その“丸”を目で追って音を出していくわけですが……、楽譜のトリックにまんまとハマってはいませんか？

「丸の部分が音」だと当然思うので

しょうが、音が鳴っているのは、実際はその丸を出発して、次の丸までの五線の白い部分なのです。意味がわかるかな？ 【A】のように点線の部分で音が鳴っているということで、「自分の音をよく聴いて」と言われたとき、聴かなければなら【A】

ないのは点線の部分の音なのです。そこで、頭の中で音符の丸と丸を【B】のように線でつなぎます。そして、スケールを線でつないでみると、【C】のような“山”ができますよね？ “階段”ではなく“山”なんです。その「なめらかな斜面を登って降りる」というイメージで、丸を吹かずに、丸と丸をつなぐ線を吹くのです。



このイメージで吹いてみると、今までよりもなめらかなスケールになって、吹いていて気持ちいいなあと思いませんか？ そして「できるだけ美しく」ですよ！

【譜例1】

♩=60 「まずは音を出すことに慣れる」「ブレスの練習をしたい」というときに

1 2 3 4 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 1 2 3 4 5 6 7 8
吐く吸う 吐く吸う

*譜例1・2はハ長調ですが、どちらもほかの調でもやりましょう

【譜例2】 ♩=60~69

*1つの音は4拍、ブレスはなるべく4つの音ごとに
*タンギングをしないパターンで（音の移りかわりの際に、息を止めずに音をきれいに繋げる）
*タンギングをするパターンで（次の音の出だしが乱暴にならないように）
*高音は出せるところまでトライして折り返しましょう

【譜例3】

*2オクターヴがたいへんな人は1音ずつ上げていきましょう